

自然と暮らし、自然に学ぶ、豊かな暮らしを考える情報誌

ご自由にご覧
TAKE FREE

2018.3
Spring Issue

#26

[宮城版]

雪がとけて
川になって
流れていきます

ふんわり



日本の森バイオマスネットワーク

支部紹介

くりまくん系

良い杉、入りました。

ふんわりズム、 ふんわりスト。 ism + ist

しちがしゅくのはくたん／すみやのくらし

白炭製造販売 セケ宿の白炭 菓子工房 すみやのくらし

佐藤 光夫さん・円さん

Mitsuo Sato, Madoka Sato



ふんわり、ふんわり。そんな人たちに、会いにいきました。ふんわりの、巻頭リレー。

それぞれの場所で輝きながら、スツと立っている人がいます。しかも、ふんわり。

「七ヶ宿町、蔵王山のおもと、山形県との県境の町に向かいました。雪が積もった七ヶ宿の街を抜け、くねくねの道を進んでいくと、「七ヶ宿の白炭」の看板がありました。「今年はいつもより雪が多いんです。」と笑顔のご夫婦が人の背丈ほどに積もった雪の中に立つご自宅へ迎えてくれました。

「山の仕事ができる場所を探していたんです。田舎暮らしをしたかったのではなく、昔ながらのシンプルな生活をしている人が暮らしている場所を探していました。」24年前に辿り着いたのが七ヶ宿町でした。炭焼きの師匠である佐藤石太郎さんと出合いがきっかけで、光夫さんは、石太郎さんの目を見た時に「この人だ!!」と感じ白炭の炭焼きを継承し生業とすること。

光夫さんは、1年を通して炭焼を行っています。3〜4日間窯で焼き、その間に次の木の伐採や搬出、袋詰めを行います。ピークでは1000℃まであがる窯から出した炭はとてもきれいで、カラカラと小気味良い音がします。円さんが「いい炭が焼けた時は、光夫さんの目を見ればわかるんです。高温の炭を見ていたから、目の表面が火傷して潤んでいるんですよ。」

「ご自宅は地元の職人さんに習って5年かけて建てました。梁や柱は七ヶ宿の山で自分で切った木です。土壁は自宅の敷地内の土を使いました。大工さんに加工してもらい骨組みまで建ててもらった後は、大工さんと左官屋さんに習って自分たちで作って行きました。」

「七ヶ宿町にお店を作りたい、町の高齢化問題や、経済がよくなる様に人が来る場所を作りたい」と円さん。「夢は無いんですけど、ずっと炭焼きを続けて、後継者が出来れば」と光夫さんは話してくれました。

「楽しい方、幸せな方にすすんで行きたい」と話す二人は、とても幸せそうでした。

8

山仕事とシンプルな暮らしを探して。



data & information

宮城県刈田郡七ヶ宿町字俣ノ台100-2
TEL&FAX 0224-37-3156
http://www.hakutan7.com

f-ist
26

Mitsuo Sato
Madoka Sato



02

ふんわりズム、ふんわりスト。

七ヶ宿の白炭／すみやのくらし 佐藤 光夫さん・円さん

04

日本の森バイオマスネットワーク

日本の森バイオマスネットワーク支部紹介

05

しんりん

眠れる森への招待状 森を守る森林イノベーション

06

手のひらに太陽の家

目覚めの春にむけて

06

ふんわりレビュー りんごかもしれない

07

サステナライフ 森の家

家族が集い伝統を受け継ぐ平屋

08

くりこま高原自然学校

工房はひふへほ アルコールストーブ

08

すがっちコラム

09

くりこまくんえん

良い杉、入りました。

10

イベントカレンダー

12

わたしたちのこと



07 05

08

Cover Photo

広い場所が好きだけど、狭いところも好き。向こう側に行ったらさらにワクワクがあるかな。(撮影場所：くりこま高原自然学校)



この印刷物は地産地消・輸送マイレージに配慮したライスインキを使用しています。

ふんわりではホチキスを使用していません。リサイクルするときのことを考えて、このような形でお届けします。ちょっと不便けどちょっとやさしい。どうかご理解ください。

編集長 ぼすとすくりぷと

冬から春へ移るこの季節、一年の中でも多くの変化を感じる季節です。慌ただしくなるこの時期だからこそ、地に足をつけ、ふんわりと春を迎えたいものです。もし心がざわついたら「ふんわり」を傍らにコーヒーでもいかがですか？変化の多い時期だから、あえてゆっくりするひと時も大切に。

No staples.
ホチキスを
使わずに。



No.4

山形支部

古民家ライフ株式会社

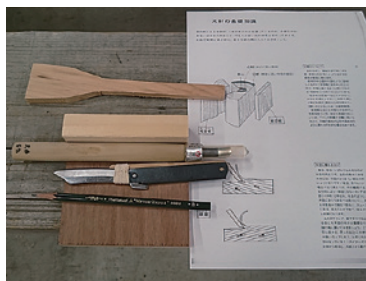
☎ 023-625-8135

<http://kominkalife.jp/>

23号より全国で活躍する各支部の活動を北から順にご紹介しています。
森と暮らしをつなげ、山も人も地域も元気になる持続可能な社会の実現を目指す、全国各地、各支部の活動にぜひご参加下さい。

古 民家に接していると、先人の知恵や発想、暮らし方がありありと見えてきます。それは、我々現代人が忘れてしまった事なのかも知れません。
平 成18年に日本人としてのライフスタイルをもう一度取り戻せるようにとの願いも込めて古民家ライフという工務店を立ち上げました。(平成24年より古民家ライフ株式会社に変更)

ゆたくらがっこう



日本の森

そ して、家造りの仕事を通してお客様と接する機会が増えるにつれ、ますます日本の暮らし方に想いを巡らせるようになります。

モ ノにあふれるこの世の中で本当に豊かな暮らしっていったいどんな暮らし方だろう?...と。自分はどうしたら幸せといえるのだろうか? 楽しいと言えるのだろうか?

そ うしてそれを考える場として、豊かな暮らし...ゆたかな暮らし...ゆたくらがっこう!! がっこうはどうせなら楽しくなるようにしよう!! そして、来た方が幸せになった方がいいな!!

と いうことでゆたくらがっこう (豊暮楽幸) はじまりました。

古 民家に実際に宿泊したり、茅刈り・茅葺き体験会を開催したり、畑で野菜を作ったり失敗してみたり、音楽祭をやってみたり、料理を作ってみたり宴をしながら夜更けまで語り合ってみたり、海水を汲みについて煮詰めて塩を作ってみたり、味噌作りをしてみたり古事記を学んできたり...。

自 分にとっても、参加する皆さんにとっても楽しい事が基本です。お陰さまでいつも楽しい会を開催させて頂いています。ここに来た一人一人が楽しく豊かに幸せになる。

自 分が幸せだったら、それを誰かに分けてあげることが出来ますよね? 目の前の誰かが笑顔になる。そんな気持ちでこれからも講座を開催していきたいと思っています。よろしくお願いたします。

山仕事のパートナーⅣ



眠れる森への招待状



昔から伝統的に使われている山仕事の道具があります。それは「トビ」。漢字では「鷹」と書きます。「鷹口」とも呼ばれ、鳥の鷹の嘴に似た形の鉄を棒の先に付けた道具です。鷹職の名前は、実はこの道具に由来します。色や音が派手なチェーンソーに比べ、とっても地味で目立たないけれど、木こりの仕事を大いに助け、しんりんが目指す森づくりにおいても欠かすことのできない必須アイテムです。

馬が引いて出すのに、バラバラに散らばっている丸太を何本かまとめたい。もう少し右に寄せておきたい。山ではそんな風に丸太をちよつと動かしたい場面が多々あります。だけど手で動かすのは厳しい重さ。動かせたとしても、すぐに腰を痛めてしまうでしょ

うし、効率も悪すぎます。

それがトビを使うだけで、引つ張る、持ち上げる、回すなどが少力で可能に！重心の取り方や体の使い方が決め手。その技は現場で先輩木こりから新米木こりへ伝えられます。一朝一夕には身に付きませんので修行あるのみ。

一人では動かせない大きな丸太は二人で、二人でダメなら三人で。機械の無かった昔は大勢で力を合わせなければならなかったので、掛け声が生まれ、それがやがて歌になりました。それは木遣り唄として、全国各地に伝わっています。

木を伐る為の鋸や斧はチェーンソーに取って代わられてしまいました。で

も、この単純だけれども偉大な発明品トビはどんなに時代が変わっても、木こりのパートナーとして受け継ぎたい大切な知恵と技です。

木こり以外でもトビの便利さに気づいた人がいます。それは趣味の薪割人達。トビを使ったら腰が楽になった！作業がはかどる！と称賛の声。薪用の丸太は短いので、トビも柄が短いタイプのものが活躍しているようです。

3月開催、パシフィコ横浜のモンベルフレンドフェアでは木こりの道具を展示します。一般の方はあまり目に見えない道具。良かったら是非しんりんのブースを訪れてみて下さいね。M



手のひらに 太陽の家

tenohira-press | 通信 |



目覚めの春に向けて



冬は寒いものだけれど、今年の寒波は特記するにふさわしい厳しさでした。水漏れに、詰まり、水回りのトラブルにも悩まされました。そんな冬も緩んで、春が顔を覗かせてきました。厳しい冬を乗り切り訪れる春は、喜びもひとしおです。

春からは、年間を通してのハーブ講座、先達が育んできた四季折々の里山資源を活かす講座やツアーなど自然を丸ごと楽しむ企画をしてゆきます。

詳細は手のひらに太陽の家までお問い合わせください。フェイスブックページ『手のひらに太陽の家プロジェクト』もご覧くださいね。



手のひらに太陽の家 TEL 0220-23-9755

一般社団法人くろこま高原自然学校

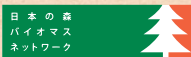
TEL&FAX 0228-46-2626 / E-mail kouei@kurikomans.com

facebook 手のひらに太陽の家プロジェクト

検索



mont-bell



手のひらに太陽の家では研修宿泊、ワークショップ、イベント時のレンタルスペースの利用など、ご希望にあわせてご相談に応じます。ぜひ一度お気軽にお問い合わせ下さい！

FunwaReview

ヨシタケシンスケ りんごかもしれない

サスティナライフ森の家
大場江美

家に帰って来た男の子が、テーブルの上にあるひとつのリンゴを見つめます。そこから想像(妄想?)の世界が繰り広げられて――。

想像力や好奇心といった物事に興味を持つ心は人生を楽しく豊かにし、生きていく力としても大事な能力でもあるでしょう。とかく、周囲の人や社会の多数意見に流されやすい日本人に、とても重要なものだと考えます。様々な角度から物事を考える、連想する訓練という大げさですが、考え方の習慣も身につくようです。我が家の一番下の子は、この絵本を読んだ後には「～かもしれない」と口癖になるほどのお気に入り。物事の見方、見え方、考え方はひとつじゃない。大人も子どもも楽しく学べる発想絵本です。S



編集部員の本棚より

家族が集い 伝統を受け継ぐ平屋

石巻市雄勝町、雄勝湾が一望できる高台に立ち、大きな入母屋の屋根が、厳しい風雨や日差しから家族の生活をおおらかに守ります。

「あれから7年、あっという間だったように思います。今ようやく家族が集える自宅と事務所の再建が始まりました。」

東日本大震災がもたらした未曾有の大津波で、一瞬にして築き上げたものが奪われました。

自宅や仕事場、そして創業以来1台ずつ増やしてきた観光バスなど20台以上が流され、事業の打撃も深刻でした。

それでも前に歩むしかないと心を奮い立たせ、残った送迎バス3台で「もう一度、地域の足に」と再起を誓い、ガレキの中を来る日も来る日もバスを走らせ続けました。

職人が思いと技術を入れた 伝統的な家作り。

伝統を受け継いだ職人による地元の材料を使った家づくりです。大工さんの手刻みによる木組み、左官屋さんが竹小舞を編んだ上に土を塗った土壁の昔ながら構法です。

1月に上棟式を迎えた現場は、2尺（約60cm）のケヤキ丸太の大黒柱と9mと8mの棟木が大屋根を支え大空間作り出しています。

これから、左官屋さんが土壁を作り、大工が内装を仕上げていきます。昔ながらの家造りは、手間と時間がかかります。その分、職人の技術と思いを込めて現場は進んでいます。

独立した子どもたちが、年の節目には家族が集う拠り所となる“ふるさと”を創ります。



何年もの間、丸太のまま乾燥させていたケヤキと太さ50cmを越える杉の大木がお客様と出会い、大工の技術で建物を支えます。



穏やかな雄勝湾と軒の深い大屋根。



伝統的な竹小舞による土壁。S



自然をつなげる
持続可能で豊かな暮らし

サステナライフ森の家

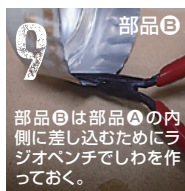
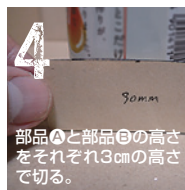
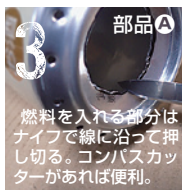
工房 koubou

はひふへほ
火歩平穂
つがやんが見たり・聞いた・教わってきた、
暮らしに使えるクラフトをご紹介します。



アルコールストーブ

今回のアルコールストーブは燃烧側の部品Aと本体底部の部品B、内側の仕切りになる部品Cの3つからなります。



塚原俊也

くりこま高原自然学校のアクティビティ担当。運営から指導まで八面六臂の大活躍。静かに燃える闘志は炭火のように強くて温かい。

薬局で買える燃料用アルコールを中央の穴の中に入れて点火する。点火後30秒くらいで、中央の熱でガスが気化するとジェット孔から炎が出てきて本燃烧となる。今回五徳は既製品などを使用。
※今回の五徳は、25号のふんわりすとourthingさんにて購入可能。

また、春を待っている。いつかの4月には、10日を過ぎても雪が降ったことがあった。森の中や日陰の雪がすっかり溶けるのは、5月の連休が終わるころ。春は、いつも遠くにあるようなイメージ。

も遠くにあるようなイメージ。

開拓一世のおばあちゃん、桜は3回見たんだと、言っていた。出稼ぎ先の東京で、まず一度目の桜を見る。そして、帰路の汽車から、仙台あたりで二度目の桜を見る。いよいよもも山に戻ってから、三度目の遅い山桜を見る。いまよりもっと寒くて、もっと雪が多かった時代の、春の遅さを思う。さて、現代の私たち。長い長いと思っていた冬も終わりに、控えめに近づいてくる春の足音。桜はまだ先で、新緑どころか、雪が解けて現れたシワシワの雑草を見つけて、ほほえんでしまうような地味な春。すこすこ日差しが届く範囲が広くなり、すこすこ木々の緑が濃くなって、私の目線もすこすこ高くなっていく。長男のしめやけが治って、次男の鼻水が出なくなると、三男は初めての春の暖かさを感ずるのかな。また一緒に、森を歩きましょう。



SUGACCHI COLUMN

すがっちくくりこま高原自然学校のスタッフで3児の子育て中。天性のホスピタリティで来る人々をもてなし続けています。栗駒山にお越しの際は、自然学校にも、いらしゃい!



良い杉、 入りました。



くりこまくんえんでは、伐採から加工まで自社で行っております。今伐採に入っているのは栗駒の山。

今はおばあちゃんが一人になつてしまひ山の手入れも難しいという事で弊社へ伐採のお話しを頂きました。

話を聞くと、山仕事に熱心な旦那さんの所へ嫁いで、一緒に植林や山の整備をして来たそうです。子供が小さい時は子供も連れて行き、シートを敷いて山の中で遊ばせて居たとか。

思い出がたくさん詰まった山の木を切らせて頂ける事に感謝し、大事にその木を使わせて頂きます。

今後は製材↓くんえん↓天然乾燥を行っていきます。

ゆっくりと効率的では無いけれど、木にも環境にもやさしく乾燥させていきます。



KURI[▲]OKU

株式会社くりこまくんえん

〒989-5401 宮城県栗原市鶯沢袋島巡44-7

☎0228-55-3261 info@kurimoku.com

<http://www.kurikomakunen.jp/>



春休み山の暮らしキャンプ

📅 3/26月-30金

山の暮らしは、遊びも仕事も自分たちでつくります。アナログだけれど、人の温もりや暮らしの知恵が生まれる時間。子ども大人も山の暮らしの一員として、一緒に学び働き・遊びます！



くりこま高原 常設プログラム

📅

ネイチャーラフト、ブナの森トレッキングガイド、石窯クッキングなど。ログハウスやコテージの宿泊も受付中！栗駒山の森をガイドいたします。



モンベルクラブ・フレンドフェア2018春 横浜

📅 3/17(土)-18日 (2泊3日)

スペシャルイベントに今年も出店します！大人も子どもも楽しめる体験メニューが盛りだくさん！



ゆがふ時間 vol.7

📅 6/16(土)

ゆがふはめぐみ、豊かさ、喜び、愛。私たちはゆがふそのもの。各種WSをはじめ、魅力満載のひと、もの、こと。「今ここ」でお会いしましょう。

ふんわりグッズ プレゼント

present!

1

くりこま高原自然学校
オリジナル手ぬぐい
【1組様】📅



2

森林木香 きこり箸
【3組様】📅



3

ふんわりと同じ
森林認証紙で作った
10x10x10cmメモ
【3名様】



巻末の応募券とともに希望の番号を書いてご応募ください。その際以下の項目もお書き添えくだされば嬉しいです。

【①よかった記事 ②つまらなかった記事 ③プレゼント応募の理由 ④プレゼントの使い道 ⑤ふんわりを手に入れた場所】

2018
March-June

f-calender

森のようちえん・小学校

☑ 毎月1～2回週末に開催予定

テーマは「は・ひ・ふ・へ・ほいく」！自然の中で、大人も子どももリラックス♪

森のようちえん・小学校 春の親子キャンプ

☑ 5月上旬(予定)

テーマは「は・ひ・ふ・へ・ほいく」！自然の中で、大人も子どももリラックス♪思いっきり雪遊びを楽しみましょう！



麻糸産み技術者養成講座

☑ 3月下旬(予定)

麻は古代から日本の暮らしの中にありました。東北に伝わる糸うみの技法を体得して、今の暮らしに麻を取り入れてみませんか。会場：手のひらに太陽の家／主催：若手やまばプロジェクト 宮城支部／共催：社団法人日本古来の大麻を継承する会

春休み栗駒山アタックキャンプ

☑ 4/1日-4日

仲間と一緒に雪の栗駒山登山にチャレンジ！小学4年生～中学生対象の冒険キャンプです



山への恩返し【植林イベント】

MSR日 5/26(土)

山の恵みに感謝して、荒れた山に木の苗を植えていきます！お子様も歓迎！汁物の振る舞いもありますよ。



皮むき間伐ツアー 2018

MSR日 5/25(金)-27日(2泊3日)

今年も皮むきの季節がやってきました！家づくりは森づくり。お問い合わせお申込み、天然住宅さんのHPから。



一年を通してまるごとハーブを楽しむ教室

☑ 4月より毎月最終日曜10:00-12:00(予定)

四季を通して世界各国で育まれたハーブ文化を種撒き～収穫、保存、食材、生活用品、アートとして、多岐にわたる利用の仕方を丸ごと楽しむ講座です。場所：手のひらに太陽の家／参加費：1000円＋材料費(500円～1000円) 講師：早坂幸野華 詳細はfacebookページを。

吉川忠英さんコンサート

☑ 6/9(土)

初夏のブナの森で、アコースティックギターの音色を楽しみましょう。(悪天候の際は屋内での開催となります。)

ふんわり関連イベントカレンダー

詳しい情報は巻末一覧から各団体HPをご覧ください。

21 22 28 29 30 31

1 2 3

4 5 6 7 8 9 10

11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3

4 5 6 7 8 9 10

11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28 29 30 31

1 2 3 4 5 6 7

8 9 10 11 12 13 14

15 16 17 18 19 20 21

22 23 24 25 26 27 28

29 30

1 2 3 4 5

6 7 8 9 10 11 12

13 14 15 16 17 18 19

20 21 22 23 24 25 26

27 28 29 30 31

1 2

3 4 5 6 7 8 9

10 11 12 13 14 15 16

17 18 19 20 21 22 23

24 25 26 27 28 29 30

1 2 3 4 5 6 7

8 9 10 11 12 13 14

15 16 17 18 19 20 21

22 23 24 25 26 27 28

B 日本の森バイオマスネットワーク

S サステナライフ 森の家

K くりこま高原自然学校

T 手のひらに太陽の家

M NPO法人しんりん

R くりこまくんえん

わたしたちのこと。

ふんわりをキーワードに集まった私たち。
業種もフィールドも違うけど、ユニークでオンリー
ワンで、おもしろいことができそうです。

くりこま高原自然学校

☎ 0228-46-2626

宮城県栗原市栗駒沼倉耕英中 57-1

<http://kurikomans.com/>

栗駒山麓をフィールドに、栗駒山、ブナの森、
世界谷地湿原など大自然をご案内します。



日本の森バイオマスネットワーク宮城支部

office@jfbn.org

宮城県栗原市鶯沢袋島 44-7-2階

<http://jfbn.org/>

森と暮らし、山も人も元気になる持続可能な社
会を目指し、森林資源普及に取り組んでいます。



手のひらに太陽の家

☎ 0220-23-9755

宮城県登米市登米町寺池辺室山 17 番地 1

<http://taiyounoie.org/>

東日本大震災で被災した子どもたちを受け入れ
ている復興共生住宅。環境教育、企業研修、
レンタルスペースなど多面的に事業を展開中。



KURI MOKU

(株)くりこまくんえん

☎ 0228-55-3261

宮城県栗原市鶯沢袋島 44-7

<http://www.kurikomakunen.jp/>

伐採・製材・チップ・ペレットと一貫した事業
を行っている、材木屋です。お客様が安心して
暮らせる木材を提供しています。



NPO法人 しんりん

☎ 0229-25-4668

宮城県大崎市鳴子温泉宇玉ノ木 70 番地
エコーの森 内

<http://shinrin.or.jp/>

森林再生と地域活性化を目指し、持続可能な
森づくりとこきりの育成を実行中。

栗原市 ● 登米市 ●

● 大崎市

塩竈市 ●

仙台市 ●

サスティナライフ 森の家

☎ 022-725-2775

宮城県仙台市泉区福岡字西森下 39-13

<http://www.sustainallife.co.jp/>

地域の資源や職人の技術を次代に受け継ぐ、
「サスティナブルな暮らし」を提案する住宅会社。



記事執筆・お問合せ…記事最後のアルファベットをご参照ください。

㊦ 日本の森バイオマスネットワーク

㊧ くりこま高原自然学校

㊨ NPO法人 しんりん

㊩ サスティナライフ森の家

㊪ 手のひらに太陽の家

㊫ くりこまくんえん

ふんわりに広告を載せてみませんか。

詳しくは編集部までお問合せください。

ふんわり 第26号

[宮城版]

【2018年3月10日】季刊（年4回発行）

ふんわり編集部

〒981-3225

宮城県仙台市泉区福岡字西森下39-13

☎ 022-725-2775

funwarinfo@gmail.com

twitter [funwari_miyagi](https://twitter.com/funwari_miyagi)



freefunwari

Funwari-report フンワリレポート!

地域の木材で作った菓子皿。岩手と宮城
県北地域の木材を作っています。岩手
県で修行し、鳴子温泉で工房を構えている富
張菜々子さん。他にもホオノキ、ケンボナシ、
ヤマザクラ、トチ、ケヤキ、クリ、キハダな
どなど…。細い木からも作りやすいので、木
製品にはあまり使われない雑木からも作って
います。木それぞれの色や木目を活かす為、
エゴマ油や蜜蝋ワックスで仕上げています。

木を大切に使い切りた
いという思い

菓子皿



工房とみはり

宮城県大崎市鳴子温泉字久田36
TEL/FAX 0229-25-6268

宮城版 5,000部

印刷：コンカツ印刷

岩手県一関市中央町1丁目7-16 ☎ 0191-48-5963

点線で切り取り、ご希望のプレゼント
と番号をそえてご応募ください。
2018年5月31日まで有効
応募券